

図書案内

2022年 1月号

担当 1-3 尾久 1-4 杉本

いままでとこれから
～新年に読むべき本～

2022年が始まりました。

新年を迎え、今までたどってきた過去を見つめ、未来を考えることができるような本を集めてみました。

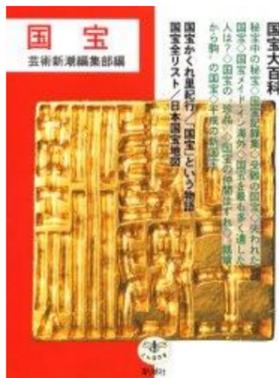
日本の伝統がつまった世界に足を踏み入れてみるのも乙なものですよ。ぜひ読んでみてください！

本は図書館で貸出しています。

『国宝』 芸術新潮編集部

日本には、建築、工芸、彫刻などにおいて古くから制作され受け継がれてきたものが国宝として数多く存在します。国宝を知れば知るほど日本の伝統文化や歴史について学びが広がります。コロナ禍で実物を見に訪れる機会が難しい今、本で作品を眺めてみるのはいかがでしょうか。(尾久)

社寺に長く伝えられてきた宝物には、秘物として開かずの扉に守られてきたものが少なくない。

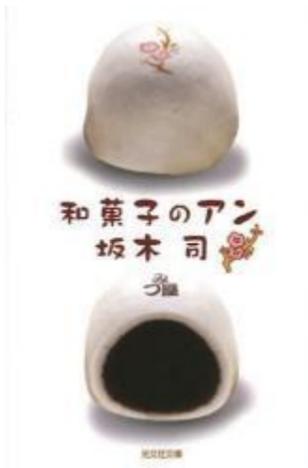


『仏果を得ず』 三浦 しをん

高校の時に人間国宝の人形浄瑠璃・文楽を観劇した健は、以来義太夫のとりことなる。

義太夫の道を極めんとする健の周りで起こる数々の人間ドラマ。健が徐々に大成してゆく様子は、ちょっとねじれた青春ドラマといったところ。これを読めばあなたもきっと人形浄瑠璃を見たくなるはず。(杉本)

これが劇だ。時空を超え、立場の異なる人々の心をひとつの場所へ導く、これが劇の力だ。



『和菓子のアン』 坂木 司

デパ地下の和菓子屋で働き始めたアンちゃんは、個性的な同僚やお客様に囲まれ、「和菓子屋」に目覚めていく。和菓子の奥深さ、和菓子屋の面白さが本の中に凝縮されています。和菓子だけでなく、和菓子屋まで好きになれてしまう、そんな一冊です。(杉本)

「大きな福って書いて大福、だから。」

『未来の地図帳』 河合 雅司

『未来の地図帳』 河合 雅司

現在、日本の人口は急速に減少している。近い将来において、どのような問題に直面し、それに対しどのように対応していくべきなのでしょう。

日本は少子高齢化社会を迎えていて、今後の人口減少が課題となっています。身近な地域で起こりうる問題を知れば、現状に気づくことができるのではないのでしょうか。現代社会の問題を考える一冊です。(尾久)

今後の取り組み次第で「未来」は書き換えが可能ということでもある。

伝統的工芸品について

伝統的工芸品という言葉を知っていますか。経済産業省によると「日常生活で用いられ、その製造過程が手工業的といった項目を満たし、経済産業省の指定を受けた工芸品」のことを言います。今年までに236品目が指定されました。その中には、富山県の工芸品である高岡銅器や井波彫刻が含まれています。高岡市の株式会社能作では、金属を加工して茶器や仏具、オブジェといった製品を製造・販売しています。そのほかにも、余った金属片の再利用や、家庭で使用されない鋳製品の回収を行うなど、SDGsに対応した取り組みを行っています。限られた資源を有効に活用できるので、伝統的工芸品は未来の環境を守る役割を持っているとも考えられます。このように、伝統的工芸品は歴史や伝統のある製品に加え、これからの社会に役立つ製品をつくるという側面を持ち合わせているのです。

【参考】経済産業省 伝統的工芸品 https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/nichiyu-densan/index.html 株式会社能作「SDGsへの取り組み」 <https://www.nousaku.co.jp/company/sdgs/>